

自 動車モデルごとに千差万別の個性を決して崩さずに、貴族文化に代表される旧き佳き英国の品格を、そして欧州の品質を自動車に与えること。そうした想いを持って活動するのが英国発祥のKAHN DESIGN (カーン・デザイン) である。彼らはレンジローバーやベントレイ、アストンマーティンなど英国伝統系ばかりではなく、世界中にあふれるハイエンドカーを己色に染めてきた。それがイタリア伝統の跳ね馬であったとしても例外ではない。カーンにはモンツァと呼ばれるフェラーリ用ホイールが存在する。

あらためてモンツァを取り上げたのは、今年に入ってから日本での供給体制が強化されたから。メルセデスチューナーとして名高いカールソンの日本におけるコンプリートカーディラーを務めるカールソン浜松が、そのノウハウをバックボーンに、系列にある株式会社isをカーンにおけるフェラーリ用アイテムの総販売元とし、かねてよりインポーターを務める橋本コーポレーションとの二人三脚体制で日本へと供給する体制が整ったのだ。彼らはカールソンの取り扱いに代表されるようにハイエンドカーの目利きであり、カスタム界を盛り上げてきた第一人者のひとりに数えられる。そんな彼らがなぜカーンの、それもフェラーリ用に絞って展開を企てたのか。

「芸術的なカーンの設計はもとより、カールソンの鍛造ウルトラライト系を手がけてきたサブライヤーが丹誠込めて生産する、その造形に惚れた。特に最新鋭の5軸マシニングによってあらゆる曲面を実現する切削技術は見とれるほどに美しい」と、同社の代表、岩井真吾氏は述べる。その言葉を裏付けるかのごとく、このF12ベルリネッタはフェラーリらしさを損なわずに、より力強さが強調されたようだ。フロント21インチ、リヤ22インチと純正に比べて1〜2インチアップだが、ホイールの外径は変えずに純正と同等の使い勝手と、純正を凌ぐフットワーク性能を実現させてもいる。



1. モンツァはカーン自身のフラッグシップ。ここに取り上げた21、22インチはフェラーリ用のPCD114.3。一部マセラティに適合するものや、ボルシェ用の19インチも存在する。カラーは写真のグロスブラックのほか、リキッドシルバー、マットブラックが存在する。2. その形を吟味するとフェラーリ専用部品であることを匂わせる無駄のないPCD設計や、5軸マシニングでの切削による複雑な造形がみえる。光の加減により様々な表情を見せてくれる。3. KAHNの正規品であることを証明するステッカーが商品に必ず添付される。モンツァは正式には2016年1月の本格始動を前に準備が進められている。予約は今からでも可能だ。

KAHN DESIGN MONZA FORGED

日英の伝統がタッグを組んだ
フェラーリ専用の美学。

PRICE

21インチ(9.0J)	45万円
22インチ(12.0J)	55万円

※価格は税別



マットホワイトのF12ベルリネッタにグロスブラックのモンツァが組み合わされる。絶妙なローダウンと相まって、車高はおろかフェンダーとのクリアランスにも無理はない。

